

第7回 作業療法ジャーナル研究助成・研究経過報告

「学齢期後半から青年期中期における、巧緻性の高い 協調運動の発達に関する調査」研究経過報告



新井 紀子氏

新井 紀子

(京都大学大学院 博士後期課程3年)

私は現在、研究助成を受け、「学齢期後半から青年期中期における、巧緻性の高い協調運動の発達に関する調査」に取り組んでいます。

本研究は、学齢期後半から青年期中期の発達障害児の特別支援教育と就労に関して、作業療法の視点を活かせる新たな評価法の確立、および評価に基づく支援の充実を目指しています。そこで、巧緻性の高い協調運動の新たな評価法開発を最終目的とし、その評価項目における定型発達児の発達の变化を調査します。

これまで、すでに標準化されている評価法より、学習や生活に影響しやすい不器用さを端的に反映すると思われる検査項目の検討を終了しました。選定には、①臨床的に評価の必要性が高い(手指の巧緻性や目と手の協調、両側協調、

道具操作、静的バランス能力)、②怪我等の危険性が低い、③実施しやすい(全体で20分未満、使用道具は持ち運びしやすい、必要な広さは畳1畳程度)を重視しました。選定した項目は、JPAN 感覚処理・行為機能検査より「コインをゲット!」、「おっとっと」、「ぶたさんの顔」、「仲良くお引っ越し」、「けがして大変」と、Movement Assessment Battery for Children-2より「Balance 1 (Static)」です。

定型発達児による調査は現在、協力依頼の段階であり、調査実施後には結果をまとめる予定です。

これからも、このたびの貴重な機会に感謝し、作業療法の発展に寄与できるよう、研究の遂行に努力していきます。